

第2回（仮称）青森市教育振興基本計画検討会議 会議概要

1 開催日時

平成27年8月29日（土） 10:00～12:00

2 場所

青森市柳川庁舎2階大会議室

3 出席者

（1）教育委員

佐藤委員長、佐藤委員長職務代行者、石澤委員、斎藤委員、月永教育長

（2）検討委員

山谷委員、前田委員、木立委員、蛭名委員、矢野委員、近藤委員、嶋中委員、
増田委員、奥委員、大坂委員、西村委員、内海委員、成田委員、熊谷委員

（3）事務局

成田教育部長、横山理事、工藤教育次長、平田浪岡教育事務所長、八木澤総務課長、
杉山社会教育課長、木村文化スポーツ振興課長、木浪中央市民センター館長、
白取文化財課長、渡邊市民図書館長、高橋学務課長、工藤学校給食課長、
石岡指導課長、山内教育課長、中央市民センター鈴木主幹、市民図書館村上主幹、
総務課泉

4 会議概要

(仮称) 青森市教育振興基本計画の策定に当たっての課題について

(1) 教育振興基本計画について

全体について

発言者	発言内容
委員	<p>【施策の体系について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の計画の施策体系を前提に、この場で課題の整理を行っているが、次期計画もこの施策体系ありきで策定を進めているのか。それとも施策体系について、今後、議論していくのか。 ・東日本大震災などを契機に、ここ数年で社会が変わってきている。何が言いたいかといえば、人材育成について、現在は各施策の中に含まれているが、もっと「人づくり」について前面に打ち出すべきではないかと考えている。 ・現在の施策体系では、「人づくり」に特化した施策がないので、それぞれの課題に埋もれてしまっている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・施策体系については、次の案件である骨子案（資料3）で、事務局案を説明し、委員の皆様にご意見を伺うこととしている。 ・事務局としては、まずは課題を整理し、課題に対応するための施策体系を整理するという流れで進めている。
委員	<p>【計画の見直しについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この教育振興基本計画は、国などの大きな動きがあれば、その都度見直しを図っていくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の方向性に影響を及ぼす変更があれば、当然見直ししなければならない。
委員	<p>【人づくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森市の教育委員会では、就学前と高等学校以降のサポートがないのではないかと。「人づくり」という分野を別に設けることで、生涯を通じた人づくりということで、これらにも対応できるようになる。

基本施策 1

発言者	発言内容
	なし

基本施策 2

発言者	発言内容
委員	<p>【不登校について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策 2 について、「とりわけ、不登校については、在籍児童生徒に対する発症率が依然として高いことに加え、」という記載内容となっているが、在籍児童ではない不登校の生徒がいるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 「在籍児童生徒に対する」という文言は、不要ではないかとのことであるので、内容を確認し、不要であれば削除したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「新たに不登校を生まない未然防止に一層取り組むことが必要です。」の言い回しが読みにくいし、分かりにくいので整理してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「未然防止が大切です。」と記載されているが、「不登校児への対応」について記載がない。検討してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 不登校について、青森市教育委員会はダメだと考えているのか。ネガティブなことだと捉えているのか。それとも受け入れるのか。 国では、フリースクールを認めようとする動きが出てきている。無理に学校に行かなくてもいいし、キャリア教育も必要ないといった考えが出されている。 不登校はダメなことで、みんながんばって学校に行って、社会人になるという旧態依然とした考え方を継続するのか、または、それとは逆でセーフティネットのためにフリースクールや適応教室などをきちんと整備するのか。そこが重要な問題である。あいまいにしてはならない。明確にした方がいい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 青森市教育委員会では、決して不登校をネガティブに捉えていない。 不登校については、いじめや教師のパワハラなどにアンテナを高く張って、未然防止策に取り組んでおり、このような記載になったのは、家庭との連携や学級づくりに努め、できるだけ子どもたちが不登校にならないように取り組まなければならないという意図と捉えている。

基本施策 3

発言者	発言内容
委員	<p>【体力の向上について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策 3 について、「今後とも体力向上にバランスよく取り組むことが必要です。」と記載されているが、意味が通じない。見直しを願います。

基本施策 4

発言者	発言内容
委員	<p>【特別なニーズのある子どもたち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策 4 について、確かに特別支援学級の生徒数が増加傾向にあり、これが教員の多忙化の一因となっていることに間違いはないが、書き方としては、「特別な支援を必要とする子どもたちが増えているが、教員定数の増加などをはじめとした対応が遅れており、教員の多忙化の一因となっている。子どもたちをきめ細やかに見ていくためには、教員や特別支援教育支援員の配置を考慮したり、特別支援学級定数の弾力化を国や県に働きかけたりする必要がある。」とすべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な子どもたちが増えているということが多忙化の一因とするのに抵抗がある。このような子どもたちの支援は教員の業務であり、多忙化の一因になっているということを言うべきではないと考える。 それよりも、特別な支援が必要な子どもたちが増えているということを、特別支援教育支援員の配置を考慮したり、特別支援学級定数の弾力化を国や県に働きかけたりする必要があるということに結び付けるべきと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 御意見のとおり修正する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「特別なニーズのある子どもたちを支えます。」に関連して、セクシャル・マイノリティが問題となってきている。実際に課題として記載するかは、事務局で検討していただきたい。

基本施策 5 について

発言者	発言内容
委員	<p>【小・中学校の英語教育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策 5 について、2020 年のオリンピック・パラリンピックの開催を見据え、文部科学省では小・中学校での英語教育を改革しようと議論しているので、課題の中に含めるべきではないか。

基本施策 6

発言者	発言内容
委員	<p>【子どもの貧困について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策 6 について、子どもの貧困について、いよいよ国でも積極的に取り組もうとしていることから、その文言は加えた方がいいのではないか。

基本施策 7

発言者	発言内容
委員	<p>【教職員の多忙化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策 7 の教職員の多忙化について、「県においてその解決策が検討されている」と記載されているが、国においても検討されているため、「国・県においてその解決策が検討されている」にしてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 別な会議で学校はブラック企業だと発言したが、教員のなり手がなくなってきている。マンパワーをきちんと整備したり、就労時間を適正にしたりといった対応が必要である。既存の取組だけで教員の価値観を高めようとしても通用しない。

基本施策 8

発言者	発言内容
委員	<p>【ファシリティマネジメントについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ファシリティマネジメントの用語を解説してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ファシリティマネジメントは、公共施設の総合整備計画であると認識しているが、市の全ての公共施設を維持・更新していくには 140 億円かかるということを知った。 その中で、学校の割合が 36 パーセントとすれば 50 億円にもなってしまうが、このような多額の費用について、学校だけの中で済むのかということに不安に思っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ファシリティマネジメントとは、施設のマネジメントのことであり、これは一つ一つの施設の維持管理を行うためのものではなく、全ての施設を全体として適正に管理していくために、公共施設の今後の需要を把握し、今後どれくらい供給していくのか、また、老朽化した施設を更新するのか、長寿命化するのかといった内容となる。 本市を含め、日本全国で昭和 40 年代に建設された多くの公共施設が老朽化し、更新時期を迎えていることから、国では、各自治体で公共施設の総合管理計画を策定するよう通知している。 自治体の財政への影響については、当然かなり大きくなると見込まれているが、国では、全ての施設を更新するよりも 6 割程度の費用で済むと試算している。

基本施策 9

発言者	発言内容
	なし

基本施策 10

発言者	発言内容
委員	<p>【生涯にわたって生き抜く力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策 10 について、「市民が、生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を・・・」という記載があるが、「市民が、生涯にわたって自己実現する力や地域の課題解決を・・・」とした方がいいと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「生涯にわたって生き抜く力」と「生涯にわたって学ぶ力」は分けた方がいい。

基本施策 11

発言者	発言内容
委員	<p>【市民センター・公民館を中心とした活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 413 キャンペーンという活動に取り組んでいるところであるが、どの分野に該当するのか。また、これにリンクした課題になっていないのではないか。 また、具体的な内容はどうなるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 413 キャンペーンをはじめとした市民センターや公民館の活性化については、基本施策 11 に分類されている。 具体的な内容については、次期計画の取組の中でお示しすることとなる。

基本施策 12

発言者	発言内容
	なし

基本施策 13

発言者	発言内容
委員	<p>【美術品の適正管理について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術品の適正管理が課題に反映されているが、施設を整備した上で適正に管理するというのではなく、美術品の適正な管理、保存、継承などといった人的な面での対応が必要という趣旨であるので、これが伝わるような文言にしてほしい。
委員	<p>【文化・芸術活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策 13 について、「関心を高める」というのではなく、「市民の文化芸術活動に対する満足度が低いので、これを高めるにはどうしたらよいか」ということを記載すべきである。

基本施策 14

発言者	発言内容
委員	<p>【文化財施設について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本施策 14 について、北のまほろば歴史館や小牧野遺跡には、ほとんどの人がいったことがないのではないか。 ・特に、北のまほろば歴史館は、ただ業務委託をして維持していけばいいという考え方に見えてしまう。 ・また、八甲田山の遭難についても、今の高校生は知らない。入館者は、ほとんどが県外の方のようだ。 ・計画の課題として記載するのであれば、積極的な取組が必要である。

(2) スポーツ推進計画

発言者	発言内容
委員	<p>【スポーツ・レクリエーション活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本施策 3 について、青森市のレクリエーション協会の活動状況はどうなっているのか。団体の活動との連携について、課題に記載した方がいい。
委員	<p>【スポーツ施設について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の空き情報を提供するという記載があるが、前に市民センターで取り組んだことがあるが、結果として随時更新できなくなるのでやらない方がいい。 ・随時、更新できるのであれば、非常に便利だが、施設は業務委託されており、少ない人員で運営されていることから不可能である。

(3) 子ども読書活動推進計画

発言者	発言内容
委員	<p>【読書について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先般、学校司書の配置について新聞報道がなされたが、このことを課題としてどこかに記載する必要があるのか検討していただきたい。
委員	<p>【読書ボランティアについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが本に触れる機会を提供するために、地域の協力などが必要となっているが、もう少し施策に反映できる文言にしてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動のところで、ボランティアという文言が多数出てくるが、そもそもボランティアというのは、ボランティアをしたいという人が主となるものである。 ・5年間の計画期間の間に、ボランティアという文言の意味が変わっては困るので、使い方を十分に検討していく必要がある。

委員	<p>【読書活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動については、八戸市ではブックセンターを設置し大人を巻き込んでいる。 ・青森市も、読書活動はとてものがんばっているが、市の施策として、もう少し大人を巻き込む取組が必要と考える。可能であれば産官学が一緒になった、例えば、本屋さんを巻き込んだ新しい読書活動を構築できないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・十分ではないが、市民図書館でも企業などを巻き込んだ取組を行っているが、情報発信などが不足している。 ・また、以前は市民図書館の登録率を課題とした時期があったが、まだまだ十分に周知されていないために、サービスが行き届いていないというところを、課題に含めるべきではないか。

2 (仮称) 青森市教育振興基本計画 (骨子案) について

発言者	発言内容
委員	<p>【現状と課題 (学校教育) について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P4 に学校教育に関する記載があるが、主語と述語の再整理が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「個を生かし夢を育む特色ある学校」という文言があるが、どこから引用したものなのか。施策にはない表現なので、独自の文言だとすればとてもいい文言である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この文言は、「生きる力」が脚光を浴びた際に、本市独自に作った文言である。本市の学校教育の指導方針を説明する際の、中心的な文言である。現場の教員は、この文言を十分に理解している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の文言であれば、どこかに「本市独自の」という文言を加えた方がいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P4 の「安全で快適な教育環境の確保や、障がいのある子どもが適切な教育を受ける・・・」とあるが、ここは「安全で快適な教育環境の確保や、障がいのある子どもを含む全ての子どもが適切な教育を受ける・・・」とするか、「安全で快適な教育環境の確保や、全ての子どもが適切な教育を受ける・・・」とすべきである。
委員	<p>【現状と課題 (文化芸術) について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P5 に「文化・芸術の底上げを図る」という記載があるが、「底上げ」という言葉のイメージが、勉強ができない子どもの成績を上げるや、売り上げが悪い店の売り上げを上げるなどといった悪いイメージがある。 ・それよりも「裾野を広げる」などといった文言の方が、イメージがいいと考える。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P5の「市民が本市の歴史・文化・祭り等への誇りや愛着・・・」については、「大人から子どもまでが本市の歴史・文化・祭り等を通じた郷土への誇りや愛着・・・」とすべきと考える。
委員	<p>【施策の体系について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育を取り巻く社会環境は、本当に大きく変わってきている。国、県、他都市の教育振興基本計画を調べたが、青森の計画が古臭く感じる。これでいいのかなと思う。 ・青森市の小・中学校の学力が全国的にも高いとされているのに、青森市が教育的に高い評価を得られていないのは、この辺のところにあるのではないか。 ・このままでは、グローバルな人材の育成や国際観光都市などの外に向けた取組などは、細かくしか記載されていないので、計画に盛り込まれていない印象を受けてしまう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今の御意見は、グローバル人材の育成などについては、取組レベルには記載されているが、施策の体系や方向性などといった大きなレベルに記載されていないので、これらに盛り込み打ち出すべきではないかという話だと思われるので検討したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・このような総合計画は、無色透明になりがちである。 ・大分県では、教育を第一のスローガンとしている。 ・八戸市で「教育立市プラン」というのを策定した際、「エヌピッコ」という子ども像を打ち出した。例えば青森市では「ねぶたっこ」などのような言葉を作って、特色を出すなど。 ・先ほどまで、インクルーシブ教育に対して青森市はこうであるべきと話したが、そうでなければ単純に底辺の底上げだけを目指すこととなる。 ・しかし、これではPRできるものがないというのであれば、特に力を入れる何かを打ち出さなければならない。できれば、キャッチフレーズ的なものがあれば、市民がより教育に興味を持つのではないか。 ・何か特色を出していかなければ、他都市との違いが出てこない。弘前市では、新入学生に塗り箸を配っているが、これは伝統に触れてもらう機会にもなっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・斎藤委員と内海委員の御意見は、これから具体的な取組を検討するに当たっての懸念だと思う。

委員	<p>【就学前教育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども子育て支援法の中では、青森市が策定する子ども支援事業計画と、教育委員会が策定する教育振興基本計画は調整を図らなければならないとされている。残念ながら、現計画の策定に当たっては、調整することができなかった。 私立幼稚園や認定こども園は法律上、学校に位置付けられており、教育の範疇となっているが、市の所管部局は健康福祉部となっている。 このことから、教育振興基本計画にはこれらに関する取組がどこにも出てこない。法律上位置づけられた、私立の認定こども園に関する記載が、教育振興基本計画の中に出てこない。どこかに盛り込むべきではないか。 今後、教育要領の改定作業に入るので、その中では、認定こども園や幼稚園などでは、就学前からの小学校への接続などが、より強く求められることとなる。したがって、就学前の取組に関する方向性がどこかに出てくるべきではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園は学校教育法の規定による一条学校に含まれているのか。また、これから含まれる可能性があるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 含まれていない。今後も含まれる予定はない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 一条学校に含まれていなければ、就学前教育といった形で括るしかない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 就学前の取組については、教育委員会だけで取り組む事項ではなく、市全体で取り組まなければならない事項である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 新制度の中での幼稚園は一条学校である。 また、新制度の中での幼保連携型認定こども園になった幼稚園は、一条学校を廃止して、認定を受けることになるので、学校という立ち位置もあり、私立学校ではあるが一条学校である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会としては、連携という形で取り組むこととなるのではないかと考えるが検討してみる。

委員	<p>【教員の多忙化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生の多忙化の要因は、保護者の対応である。多くの先生は、学校で子どもたちへの対応は苦にしていけないが、保護者の対応に疲れてしまっている。 ・子どものために苦勞するのは学校の先生の役目であるが、その先生がぼろぼろに疲れていては、健康的な教育はできない。高いハードルの事案があっても、それを乗り越えるところに素晴らしい教育の成果があるのだが、そのハードルがあまりにも高くなっているのではないか。 ・今後、具体的な取組を検討するに当たっては、この観点を念頭にいただきたい。
委員	<p>【競技水準の向上について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P9の「競技水準を向上させます。」について、2020年開催のオリンピック・パラリンピックを見据え、「オリンピック・パラリンピック」の文言を取り込むというのはどうか。
委員	<p>【読書について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本施策13の読書活動については、子ども読書計画を取り込むことから、対象が子どもだけになると思うが、大人を対象とした読書活動の推進はどこに含まれるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本施策10と11に含まれている。
委員	<p>【文言の使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P2について、「計画策定の趣旨」の初めに、青森市教育委員会（以下「教育委員会」という。）としているが、「市では」などといった文言が使われているので整理が必要である。 ・P2について、「平成27年度で終期を迎えることとなりました。」という記載があるが、「なります。」ではないのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P4について、「学校教育を取り巻く環境は、厳しさを増してきている」との記載があるが、確かに事実ではあるが、学校は楽しい場なので、誤解を招かないような表現にしてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘のとおりなので、修正する。